

豊かな心を持ち、進んで行動する生徒の育成

関中だより

平成31年
2月18日
第36号
(文責 花岡)

リーディングパーティーが行われました

全校が一同に集まり、一冊の本を鑑賞し、意見を交換する。なかなかこのような取り組みができる学校は少ないのではないのでしょうか。

発表された意見は、それぞれが自分のことと本の内容とを結びつけて考えられた内容で、感心しました。また、他の人の感想を聞いて、感じるものも多かったのではないのでしょうか。このような取り組みが全校でできる今に感謝したいと思えます。

『たくさんのドア』を聴いて(読んで)考えました



・・・「やわらかなのそみに つばさを つけて あなたは はばたきはじめ
あなたはまだ しらない じぶんが どれほど つよいかを」・・・
・・・「きょうも あしたも あなたは たくさんの ドアを あけていく
そのむこうに たくさんの おどろくことが まっている」・・・

三年生よ 負けしないで

その日まで負けしないで

みんな自分の真実が知りたくて目の前にある大きな壁に登っている時々、自分の位置がわからなくて大声で偽りの弱音を吐いてみるだれかが「大丈夫!」と言ってくれることを期待して・・・

自分に自信がないから人に少しでも認めて欲しい寂しい考え方だけど今はそうすることで不安をまぎらわすことしかできない



みんなの心の中に不安がなくなる日はいつ来るのだろうきっとその日はもうすぐ来るはずその日まで自分との戦いに負けしないで欲しい

この詩は、ある中学校の三年生の女の子が三学期に書いたものです。ちょうど、これから受験に臨もうとしている生徒の気持ちを表しているのではないのでしょうか。受験期には誰しも追いつめられたような気持ちになります。自分に自信が持てなくなりがちです。何か(もちろん勉強ですが)しなくてはという気持ちになり、あせりが出てきます。自分だけ失敗するのではないかと心配でいたたまれなくなり、ふさぎ込んだり体調を崩したり、妙にはしやいだり、ふさぎ込んだりする人も出てきます。初めて仲間とは違う道を選択しなければならぬし、チャレンジしなくてはならないというプレッシャーがかります。しかし、周りの人たちを見て下さい。この壁が乗り越えられなくて、つぶれてしまった人がいますか。受験に失敗して、人生がめっちゃくちゃになった人がいますか。たいていの人が、この壁を乗り越えていっています。たとえ失敗したとしても、力強く人生の肥やしとしています。

いたずらに「不安だ不安だ」と言っているのではなく、真正面からチャレンジしてほしいのです。今現在しなければいけないことに、しっかりと取り組んで下さい。それがプレッシャーに打ち勝つ一番の方法だと思います。

小中連携の取組を行っています

毎年、小学校六年生(本年度の入学生)に中学校の授業を体験してもらっています。以前は、中学校の先生が小学校に行き、出前授業という形で中学校の授業を体験してもらっていました。

最近、中学校の校舎で実際に授業を受けて、これから入学する中学校のイメージを持つてもらおうようにしています。在校生の皆さんも経験してきたはずですよ。おぼえていますか?



小学校で英語の授業が始まっているので、二クラスにわかれて、同時に英語の先生に授業をしていただきました。これから大事になってくる「話すこと」を中心にペア学習も取り入れた最新の授業スタイルを体験してもらいました。